

開設の目的・概要 等				
<p>高齢社会に突入した本邦において、加齢とともに今後PD患者が急増することが予想される。よって現在対症療法のみである現状を考えると病態解明は喫緊の課題と言える。これまで、数多くの対症療法が開発されてきているが、今尚もっとも有効な治療薬はレボドパである。しかしながら、従来のレボドパでは半減期が短くより長時間作用するレボドパの開発が望まれる。また進行を遅くする疾患修飾療法は未だ開発されておらず最もunmet needの高い領域とも言える。本講座は製薬メーカーである大原薬品、パーキンソン病に特化した企業であるPARKINSON Laboratoriesとの共同研究で新規治療開発を目指す。</p> <p>パーキンソン病では数多くの薬剤が開発され、平均寿命は一般人口と大差無いレベルまで改善している。一方、健康寿命については依然一般人口と比べると短く、更に患者の生活の質は高いとは言えない。その薬剤の開発は対症療法の域を超えることは無く、疾患修飾療法の開発に関しては皆無と言って良い。本講座では、新規長時間型レボドパの開発をはじめ疾患修飾療法の開発を目指す。既に血液バイオマーカーを開発できており（論文準備中）、疾患修飾療法に関してモニタリングが可能な状況である。本邦で最も患者が多くしかも基礎的データ構築も世界でトップランナーである当教室との共同研究講座の成果は大いに期待出来ると思う。</p>				
区分	番号	学位論文	全著者名,論文名,掲載誌名, 掲載年 ; 巻 (号) : ページ番号	国際共同
英文原著	1		Inoshita T, Liu J-Y, Taniguchi D, Ishii R, <u>Shiba-Fukushima K</u> , Hattori N, Imai Y.: Parkinson disease-associated Leucine-rich repeat kinase regulates UNC-104-dependent axonal transport of Arl8-positive vesicles in Drosophila. <i>iScience</i> . 2022. 25(12): 105476	
英文原著	2		Tezuka T, Taniguchi D, Sano M, Shimada T, Oji Y, Tsunemi T, Ikeda A, Li Y, Yoshino H, Ogata J, <u>Shiba-Fukushima K</u> , Funayama M, Nishioka K, Imai Y, Hattori N.: Pathophysiological evaluation of the <i>LRRK2</i> G2385R risk variant for Parkinson's disease. <i>NPJ Parkinsons Dis</i> . 2022 8: 97	
英文原著	3		Daida K, Shimonaka S, <u>Shiba-Fukushima K</u> , Ogata J, Yoshino H, Okuzumi A, Hatano T, Motoi Y, Hirunagi T, Katsuno M, Shindou H, Funayama M, Nishioka K, Hattori N, Imai Y.: α -Synuclein V15A variant in familial Parkinson's disease exhibits a weaker lipid-binding property. <i>Mov Disord</i> . 2022. 37(10): 2075-2085	
英文原著	4		Liu J-Y, Inoshita T, Shiba-Fukushima K, Yoshida K, Ishihama Y, Imai Y, Hattori N.: Ubiquitination at the lysine 27 residue of the Parkin ubiquitin-like domain is suggestive of a new mechanism of Parkin activation. <i>Hum Mol Genet</i> . 2022. 31(15): 2623-2638	
区分	番号		発表者名,発表タイトル (題目・演題・課題等) ,学会名,場所,発表年月日等	国際共同
国内学会発表	1		福嶋佳保里、井下 強、今居 譲、服部 信孝, 1.VPS13はミトコンドリアの恒常性と神経活動において機能する, 第45回日本神経科学大会, 東京国際フォーラム, 2022. 5.19	
国内学会発表	2		石丸 友博, 齊木 臣二, 井本 正哉, 小関 大地, 笹澤 有紀子, 北川 光洋, 武井 智暉, 服部 信孝, Evaluation of efficacy of new therapeutic compounds for Parkinson's disease focused on autophagy. 第45回日本神経科学大会, 東京国際フォーラム, 2022. 5	
国内学会発表	3		福嶋 佳保里、井下 強、今居 譲、服部 信孝, Drosophila VPS13 regulates neuronal synaptic activity and mitochondrial homeostasis., 第63回日本神経学会学術大会, 沖縄コンベンションセンター, 2022.7.1	
区分	番号		発明者名, 発明の名称, 出願番号	国際共同
知的財産権の出願・取得等	1		服部 信孝、波田野 琢、奥住 文美、松本 弦：パーキンソン病と多系統萎縮症の鑑別診断、特願2021-000188 (特開2022-105412)	